

心の底から満足でできる結果を

教室の前に置かれている雑巾スタンド（雑巾がけ）を見るようにしています。雑巾が美しく掛けられていれば素通りできるのですが、私が手を出して直さなければならぬ時もあります。そんなときは目線を低くして雑巾を掛け直します。すると、あることに気がきます。雑巾スタンドの下に多くのゴミがたまっているのです。置かれているものを移動させてまで掃除をしないということでしょうね。

掃除をさぼっているとは思っていません。ゴミが目立っているのは雑巾スタンドの下や配膳台の下だけです。モップやほうきを使って一通りの掃除はできているとわかります。しかし、ここなのです！ここが北中の大きな課題の一つです！

掃除の最大の目的は、「美しくすること」です。掃除道具を手にして、掃除の時間いっぱい黙々と取り組めばよいというものではありません。美しくできなかつたら、掃除の意味はないと言ってもよいでしょう。

黙ってやらなくてもよいと言っているのではありませんので、誤解しないでください。黙々と掃除に取り組んでいても、ゴミがたまっていたり汚れが残っていたりしたら本末転倒です。「何のために黙ってやっていたの？」と言いたくなります。

掃除の時間に、ゴミをとり切らずに「頑張った」「きれいになった」と満足していれば、自己満足にしかありません。「今日は余分なおしやべりなしで取り組めた」とたたえ合っても手放しては喜ばません。

このことは、学習とよく似ていませんか。勉強の最大の目的は「力を付けること」です。期日までにワークをやり切って提出できたとか、仲間の発言にしっかり反応できたとか、一見すると頑張っている事実には思えます。しかし、この時点で満足していたら、「力を付ける」まではたどり着けないのではないのでしょうか。

掃除は美しくするために取り組むもの。勉強は力を付けるために取り組むもの。これらを外さないように取り組みたいもの。です。黙ってもくもくと掃除や勉強に取り組むのが尊いのではなく、どちらも真剣に取り組めば、すると、口数は自然と減ってくる。そんな状態になるまで自分を高めることが尊いのです。

北中の大きな課題の一つは、「概ねできていても、目的が達成しきれしていない」という点だと思えます。どうせやるなら、中途半端な結果でなく、心の底から満足でできる結果を得るまでやってみようではありませんか！

（六月二十二日 記）

